

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立石薬師高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自主・・・自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校
		○創造・・・地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校
(2)		○敬愛・・・笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校
		○育みたい 児童生徒像
(2)	育みたい 児童生徒像	○学習することの意義を理解し、主体的に学習に取り組むことができる生徒
	育みたい 児童生徒像	○自己の進路についてしっかりと考え、その実現に向けて努力する生徒
(2)	育みたい 児童生徒像	○豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として責任感を持って貢献できる生徒
	育みたい 児童生徒像	○互いに声を掛け合い、協力し合って、「チーム」として教育活動に取り組む教職員
(2)	育みたい 児童生徒像	○一つひとつの授業を大切にし、研鑽を重ねて、授業力向上に取り組む教職員
	育みたい 児童生徒像	○生徒に寄り添い、笑顔と元気を絶やさず、丁寧に粘り強く生徒の指導に取り組む教職員
(2)	育みたい 児童生徒像	○豊富な人間性を身につけ、将来、社会の一員として責任感を持って貢献できる生徒
	育みたい 児童生徒像	○豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として責任感を持って貢献できる生徒

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 希望の進路を実現するために必要な能力（学力、コミュニケーション力など）を身につけたい。 学習だけでなく、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事や部活動等でも充実した高校生活を送りたい。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもがしっかりと学習し、希望の進路を実現するよう指導してほしい。 いじめや暴力がなく、必要な支援を受けながら、子どもが安心して学ぶことができる学習環境を提供してほしい。 	
	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と連携するために、学校での子供の様子等を教えてほしい。安心して子供を預けられる学校になってほしい。 <p><地域及び地元企業></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に誠実に取り組み、卒業後は地元で活躍する生徒を育ててほしい。 生徒が基礎的な学力や社会人として必要な資質を身につけられるように指導してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 義務教育段階での学習内容の定着が不十分な生徒もいるが、基礎・基本をしっかりと指導して、進路希望を実現させてほしい。 <p><杉の子特別支援学校石薬師分校></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校と杉の子特別支援学校石薬師分校（以下、「石薬師分校」という。）の生徒が交流することを通じて、両校の生徒の人格形成や成長につなげたい。 <p><関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全・安心な学校生活のために連携を密にしてほしい。 	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の指導方針を理解し、保護者も生活習慣や服装等の指導をしてほしい。 <p><地域及び地元企業></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が卒業後に地元で就労し活躍できるよう、雇用の拡大に努めてほしい。 インターンシップの受け入れなど、学校との連携・協力を推進してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活に必要な基礎的な学力や基本的な生活習慣を身につけさせてほしい。 生徒が高校生活を順調にスタートできるよう、情報共有を密にしてほしい。 <p><杉の子特別支援学校石薬師分校></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の指導について、専門的な視点からの指導、助言をしてほしい。 <p><関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全・安心な学校生活を確立するために、連携を密にし、協力してほしい。 専門的な見地からの指導や助言をしてほしい。
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動、ボランティア活動などの校外にも発信できるような取組を進めて、学校にさらなる活気を醸成してほしい。 ・厳しい社会状況がある中で、進路指導で結果を出した。キャリア教育は石薬師高校としての強みではないか。今後も、「サクラサク・プラン」を基盤としつつ、生徒に対するきめ細やかな指導を継続してほしい。 ・校則の改定については、時勢から理解できる場所であるが、生徒の生活態度についてはしっかりと指導していただき、学校としての評価の向上につなげてほしい。
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習態度等は、落ち着いてきてはいるものの、学力は多様であり、学習習慣が十分に身につけていない生徒が見られることから、「わかる授業」を通じて、学ぶ楽しさを実感し、学習の仕方をつかむことができる授業づくりへの継続的な取組が必要である。 ・生徒の家庭環境や生活背景が多様であることや、特別な支援が必要な生徒もみられることから、すべての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携を充実させ、教職員が「チーム石高」として、生徒一人ひとりしっかりと向き合い、サポートする必要がある。 ・生徒一人ひとりが進路実現に向けて自ら考え、取り組むことができるよう、3年間を見通したキャリア教育の充実に努める必要がある。
	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、学習面、生活面などあらゆる教育活動を通じて、生徒に対してきめ細やかな指導を行い、また工夫改善にも取り組むことで、成果が上がりつつある。一方で、クラス数減による教員数の減少に伴い教員の負担増が見込まれる。働き方改革の観点からも、業務の整理や効率化等による総勤務時間の縮減に向けた具体的な取組の推進が必要である。 ・杉の子特別支援学校石薬師分校中学部が令和5年に移転することも見据えて、両校の強みを生かし、生徒の成長に資するために、それぞれが持つ教育の専門性や機能を生かした取組ができるよう、支援のノウハウを共有するなど、より一層、交流や情報交換を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、生徒が学習することの意義を理解し、主体的に学習に取り組むことができるよう、個に応じたきめ細かな指導を引き続き充実する。 ・生徒が、人や地域との関わりの中で、他者への優しさや思いやり、生命の尊さや人権を尊重する心、感謝の心など、豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として貢献することができるよう、教育活動全般を通じて心の教育を進める。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導や生徒指導、進路指導など、学校のすべての教育活動において、教職員が一体となって取り組むことができるよう、また、教職員全員がやりがいを持って職務を遂行できるよう、日常から互いに声を掛け合い、協力し合うとともに、教職員同士が知識、ノウハウ等を共有し、互いに教え合い、高め合うなど、「チーム力」の高い集団づくりを行う。 ・生徒及び教職員が快適で充実した学校生活を送ることができるよう、積極的に校内、学校周辺や通学路の美化活動、環境整備に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力の向上・学習指導の充実	<p>(1) 授業の始めに、「教科書のページ」「授業のねらいと目標」を明示するなど、生徒に見通しを持たせる、ユニバーサルデザインの視点に基づき、教職員全員が共通理解のもとで統一したスタイルで進めることにより、生徒が安心して授業を受けることができるしくみづくりを引き続き進める。</p> <p>(2) 課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)等の手法を授業の中に取り入れ、生徒一人ひとりが授業で活動したことを実感できる授業づくりを進める。</p> <p>(3) 授業力向上週間を設定し、授業公開及び教職員相互の授業見学と授業研究による授業力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】授業の始めに授業のねらいと目標を明示するなど見通しを示している教職員の割合 100%</p> <p>【活動指標】教職員一人あたりの授業見学の回数 1回以上</p> <p>【成果指標】学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をした生徒の割合 70%</p>	<p>・年度初めに「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を読み合わせ、通常授業において実践できるように申し合わせ、実行した。</p> <p>・「授業力向上週間」を設け、校内の教員で互いの授業を見合い、気づいた点などをフィードバックするなどして自発的な協議を進めた。</p> <p>・ICT 機器を活用した授業を進めた。生徒が主体的に調べたり、発表したりするような授業展開を図る授業事例が増えた。</p> <p>・授業でわからないことがあった時に「自分で考える」「あきらめる」の割合が全体で 27.7%おり、粘り強く学習する態度を育成することに対して引き続き検討して取り組みたい。</p> <p>◆事業のねらい、見通しの提示:96.3%</p> <p>◆対話的・主体的で深い学びを意識している割合:92.6%</p> <p>◆授業見学実施(1回以上):100%</p> <p>◆石薬師高校の授業環境に満足した生徒の割合:85.2%</p> <p>◆石薬師高校の授業内容を理解できると回答した生徒の割合:76.1%</p>	◎
生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現	<p>(1) 生徒の頭髪や服装等の指導方針について、教職員が共通理解し、生徒にとってわかりやすい指導を進めることで、生徒の規範意識を高める。</p> <p>(2) 明るくさわやかなあいさつを自ら行う学校づくりを進める。</p> <p>(3) 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、生徒への声のかけ方など一致した考え方で指導にあたり、生徒の心の成長を促進する。</p> <p>(4) 模範生徒表彰制度を継続し、真面目に努力する生徒を激励するとともに、生徒の意識の醸成を図る。</p> <p>(5) 生徒同士が、お互いの人権を尊重し、思いやりの心を持っていじめのない安心した学校生活を送れるよう、きめ細かな観察と支援に努める。</p> <p>【活動指標】模範生徒表彰の実施 3回</p> <p>【成果指標】学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合 80%</p>	<p>・昨年度表記等を改訂した本校の生徒指導指針「生活の手引き」を運用した。生徒の規範意識向上と生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導・支援に務めた。</p> <p>・全体として特別指導を要する事案の発件数は減少している。そうした中で、1人ひとりの生徒への指導については、起こった事案について毅然と指導することに加えて、生徒の悩みや困り感についても把握して、教育相談と連携した取組を進めた。</p> <p>・良い行動をした生徒に与えるブルーカード制度を活用し、模範的な生徒の表彰も行いながら、生徒が安心して生活できる学校づくりに務めた。</p> <p>・「安心して過ごせていると思わない」と回答する生徒の割合が、11.6%いる。不安を感じる生徒が生じないように引き続き取り組みを進める。</p> <p>◆模範生表彰:3回</p> <p>◆安心して過ごせていると回答した生徒の割合:79.3%</p>	◎

<p>キャリア教育 (進路指導)</p>	<p>(1) 生徒が自己の進路についてしっかりと考えることができるよう、必要な情報提供を行うとともに、きめ細かな相談体制を構築する。</p> <p>(2) すべての生徒が希望する進路を実現できるよう、「サクラサク・プラン」の内容を充実・活用し、系統的なキャリア教育、進路指導を継続して実践する。</p> <p>【活動指標】個別・三者面談の実施 4回 【成果指標】学校満足度調査で目的意識の有無について肯定的な回答をした生徒の割合 80%</p>	<p>・9月が臨時休校となったため、予定していたキャリア教育の取組を変更せざるを得ない状況があったが、3学年では個別対応を行った結果、学校あつせんで就職した割合が100%を実現した。</p> <p>・3学期に予定していた進路行事が開催方式を変更したり規模を縮小したりするような状況があったが、年度を通じて各学年において系統的に取組むことができた。</p> <p>・生徒の実情に応じた進路決定について、面談を重ねて慎重に決定することが今後も重要である。</p> <p>◆面談実施:計4回 ◆高校進学目的として学業や進路決定に関わる回答をした生徒の割合:80.1%</p>	<p>◎</p>
--------------------------	--	--	----------

<p>改善課題</p>			
<p>・ICT機器を活用する授業づくりを、すべての教科において実践できるように準備を進める。次年度入学生からは、1人1台端末を保持していることから、授業やその他活動における積極的な取組を進めることが必須事項となる。次年度は、より効果的な方法についての研修を重ね、実践を校内でシェアする必要がある。</p> <p>・令和4年度から学年進行で実施される新学習指導要領に準拠した授業内容を実践し、次年度から始まる観点別評価を実行する。</p>			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり</p>	<p>(1) 教職員が互いに声を掛け合い、協力し合って教育活動に取り組む職場環境をつくる。</p> <p>(2) 管理職や経験豊富な教職員が教えるのではなく、職場みんなで互いに「学びあえる」職場風土をつくりあげる。</p> <p>(3) 学年・分掌の枠を超えて、学校環境の改善、教職員の資質の向上について話し合う。</p> <p>(4) 授業担当者会議等を通じ、生徒の状況について情報共有を図る。</p> <p>(5) 継続的なコンプライアンスミーティングや振り返りを実施し、当事者意識の定着と教職員の不祥事を許さない風土を醸成する。</p> <p>【活動指標】学校環境の改善等について、学年・分掌の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催 10回 【成果指標】教職員を対象にしたアンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れているということについて肯定的な回答をした教職員の割合 100%</p>	<p>・教職員間で討議する研修を実施し、意見交換や資質向上の機会をつくった。</p> <p>・コンプライアンスの徹底について、学校信頼向上委員会を組織し、オフサイトミーティングとして、日頃の業務内容について改善を図るグループ討議を行った。</p> <p>・コンプライアンスに係わるチェックリストを全職員で共有し、意識の向上につなげた。</p> <p>◆石薬師高校向上委員会:10回 ◆学校信頼向上委員会:5回 ◆教職員間の意思疎通:92.6%</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>
<p>保護者、地域、中学校等との連携、情報提供による信頼の構築</p>	<p>(1) 学校での生徒の様子、生徒の家庭等での状況について、保護者との連絡・情報交換を密にする。</p> <p>(2) 保護者あて配布物の用紙を黄色にすることや、一斉メール、HPでの発信等での工夫を行うなど、学校からの情報を確実に届けるとともに、生徒、保護者にとって、わかりやすい情報提供に努める。</p>	<p>・保護者に対しては、日常から速やかな電話連絡や家庭訪問等を通じて意思疎通及び情報共有に努めている。</p> <p>・学校からの連絡については、一斉メール等を活用しながら情報伝達に努めた。</p> <p>・キャリア教育プランの一環として、各種の</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>

	<p>(3) 地元での就職希望を実現するため、地域や地元企業が望む人材等についての情報交換を行うなど、連携を図る。</p> <p>(4) 生徒が本校入学後に順調に高校生活のスタートを切ることができるとともに、途切れることなく必要な配慮や支援をできるよう、中学校等との情報共有を密にする。</p> <p>(5) 教育活動について、保護者や地域からの理解を深めるため、特徴的な取組等について、報道機関等に資料提供するなど情報発信に努める。</p> <p>【活動指標】保護者懇談の実施回数 2回 【活動指標】家庭連絡を密にしていると回答した教職員 100% 【成果指標】保護者対象アンケートで学校の様子が変わることについて肯定的な回答をした保護者の割合 75% 【活動指標】報道機関への情報提供 3回以上</p>	<p>行事を通じて、地元企業や各種学校との連携を密にし、生徒の進路実現に努めている。</p> <p>◆保護者懇談実施:年度内 4 回(うち 2 回は全員が対象) ◆家庭連絡を密にしていると回答した教職員の割合:88.8% ◆学校の様子がわかる回答:59.7% ◆生徒一人ひとりにきめ細かい指導をしていると感じる保護者の割合:82.2% ◆報道機関への情報提供 2回</p>
<p>教職員が働きやすい環境づくり</p>	<p>(1) 教職員が心身の健康を維持し、意欲的にかつ、ゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間を削減し、年次有給休暇の取得を促進するなど、総勤務時間の縮減を図るための具体的な取組を進める。</p> <p>(2) 管理職と教職員が、相互に協力し、職場の実情に応じた取組を積極的に講じるよう努める。</p> <p>【活動指標】定時退校日の設定 月あたり2日 【活動指標】部活動休養日の設定 週あたり1日 【活動指標】放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 80% 【成果指標】一人あたりの年間休暇取得日数 平均取得日数 15 日 【成果指標】月45時間を超える時間外勤務労働者数 0人 年間360時間を超える時間外勤務労働者数 0人 【活動指標】学校環境の改善等について、学年・分掌の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催(再掲) 10回</p>	<p>◎ ・教総勤務時間の縮減については、会議の精選や年休取得の促進等に務めたが、職員数の減少や新型コロナウイルスによる休校等への対応等があり、時間外労働がつき 45 時間を超える教職員数 0 人については、達成できなかった。</p> <p>◆定時退校日設定:月 2 日 ◆部活動休養日している部活動:100% ◆60 分以内の会議の割合:87.5% ◆年間休暇取得:12.5 日 ◆時間外労働 月 45 時間以上:2 人 年 360 時間以上:2 人 ◆向上委員会:10 回</p>
<p style="text-align: center;">改善課題</p> <p>・毎年教職員数が減少する中、業務の精選に努めているものの、一部の教職員に業務が偏る状況が継続している。一方で、ICT 機器の導入や、観点別評価基準の実施などの新たな取組が求められている。今後も各分掌業務の内容を見直したり持続可能になるよう学校行事を再考したりするなど、業務の精選を引き続き検討しなければならない。分掌構成を編成し直すなど業務分担の平均化ができればと考えるが、大きな課題である。</p>		

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石薬師高校の生徒の様子に落ち着きが見られるようになっており、学校に対する評価があがっている。転学・退学などの進路変更をする生徒の数が減っている状況もある。授業や部活動で教職員が改善を図っている状況が見受けられる。今後新型コロナウイルス感染症が落ち着いてくれば、校外にも発信できるような取組を進めるとよいのではないかと。そのような対外的な活動を含めて、学校にさらなる活気を醸成してほしい。 ・一方で、言葉遣いや身だしなみなどで幼さが感じられる生徒も見受けられる。生活指導や礼儀を徹底させることには難しさもあるだろうが、根気よく指導いただきたい。 ・厳しい社会状況が続く中で、進路指導(特に就職において)で結果を出している。9月の休校期間中の個別指導は大変だったと察する。先生方が頑張られたのだと思う。地元企業に就職
----------------------------	---

	<p>を果たす人材を輩出する学校として位置づけることは、石薬師高校の強みである。今後も、「サクサク・プラン」を基盤としつつ、生徒に対するきめ細やかな指導を継続してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉の子特別支援学校と併設する学校環境は、共生の心を育むうえで良い取組であるようにも見える。しかし、石薬師高校の空き教室を引き渡すことには複雑な思いもあるので、教育活動が活性化されるようにつなげるよう留意してほしい。
--	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症も背景とする複雑な社会情勢が継続している。そのような中、徒一人ひとりの状況をよく観察し、情報を共有して個々に応じた支援・指導が実現できるような制づくりが、引き続き求められている。本校の強みである教職員全体で生徒を支える職員関係を継続させ、一人ひとりの生徒へのきめ細やかな対応を実践したい。また、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカー、就職実現コーディネーター、発達障がい支援員との連携を継続して行う。 ・個々の教職員においては、自身の授業力向上に向けた取組を継続し、学校全体で魅力ある授業づくりが進められるよう、教職員研修等資質向上の機会を増やしたい。特に、ICT 機器を活用した授業づくりについて、次年度は研修を重ねる年度とする。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない教職員数の中で、一部の教職員に業務負担が偏ることがないように、業務の精選と整理が必要である。その上で、会議の効率化や優先順位の明確化に努めたい。 ・教職員が受け持つ諸業務を、可能な限り文面化して、持続的にマニュアルを引き継げるように取り計らう。